

県内におけるロードサービス業界で圧倒的なシェアを誇る

株式会社榎本レッカー 奈良県奈良市

株式会社榎本レッカーは、今年で会社設立20周年を迎え、“車のことならなんでもおまかせ！”をモットーに、ロードサービス業務で業界を牽引している。依頼者の様々な要望に全力で応え、年間の救援案件は約5万件に達する。ロードサービス特約の自動車保険への付帯が定着するなか、ロードサービスの利用件数も年々増加の一途をたどっており、拠点の拡充を進めて確実に業績を伸ばしている。

同社はGPSを活用した「救援依頼システム」を導入して全国の場合を本社で一元管理するなど、業務の効率化を進めている。24時間365日年中無休の出動体制を維持するため、労働環境の改善、あらゆる現場に対応できるスタッフの養成にも積極的に取り組んでいる。

今後においても、創業以来築き上げてきた信用と実績を礎に、地域社会への貢献と自社の持続的發展を両立させていく。

会社概要



会社名：株式会社榎本レッカー
所在地：奈良県奈良市奈良阪町1143
電話：0742-27-3000
FAX：0742-22-5500
設立：2003（平成15）年5月
代表者：代表取締役 榎本 純市
資本金：1,000万円
従業員：73名
事業内容：事故・故障車の救援・修理・搬送

URL：<https://www.masumoto-wrecker.co.jp/>



同社のロードサービス隊員と救援用車両

24時間365日年中無休で救援対応

株式会社榎本レッカーは、現社長である榎本純市氏の祖父と父が始めた。建築業を営む傍ら、タイヤのパンクの修理など、クレーン付のトラックを用いて故障車の修理を請け負っていた。会社設立当初は、主に警察関係から月間30件程度の依頼に対応していたが、代金の回収が困難な案件などで苦労が多かったようだ。現在は24時間365日体制を構築し、保険会社から連絡を受け、年間で約5万件のロードサービス業務を実施している。

救援という付加価値の提供は景気に左右されにくく、コロナ禍においても業績を伸ばしてきた。会社設立以来20期連続で増収を達成、売上の約98%はロードサービス事業が占めている。関西では同業者の拠点的ない空白地帯はほぼなくなったが、日本全国ではまだ進出余地のある地域がある。現在、関西圏で本社を含めて6拠点、愛知県に4拠点、関東圏に1拠点を有しており、今後、東京方面で新たな拠点の開設を検討している。



救援案件の進捗をリアルタイムで把握する運行管理チーム

自動車保険に標準付帯のロードサービス

ロードサービスが付帯された自動車保険がここ20年で右肩上がりに増加し、現在では、自動車保険に基本的に標準付帯されている。「今では、車にエアバッグが標準装備されていることが当たり前になっているように、ロードサービスが付帯された自動車保険が当たり前になると以前から予

想していた。我々の仕事は運送業、修理業、その他サービス業などに分類されることが多いが、「ロードサービス業」という名前がもっとメジャーになってほしい」と梶本社長は語る。業界の先駆者として、どんな救援案件の依頼でも引き受けて保険会社と強固な関係を築き上げることで、同社の拠点のある地域では他社の参入が非常に困難になっている。地道な救援対応の成果が実を結び、保険会社から「対応がスピーディーな会社」という評価を得て、事故発生の際に優先して案件を回してもらえるようになった。これまでの信用と実績がモノをいい、事故対応の依頼を受ける頻度が高まるという好循環が生まれている。



様々な用途の車両が 24 時間体制で出動に備える

お客様から感謝される仕事

同社は、大手損害保険会社等からロードサービス特約についての事故・トラブル等の受付業務を一括受託している「アシスタンス会社」と呼ばれる業者と提携している。救援依頼の連絡は本社で一括して受付を行い、現場と自社の最も近い拠点との距離や道路状況を考慮した到着時間が瞬時に算出され、「SV（スーパーバイザー）」と呼ばれる同社の担当者が救援対応を差配する。GPSを活用した「救援依頼システム」を導入しており、関西圏以外の愛知県、東京都、埼玉県などで発生した案件についても、本社で対応状況を随時把握できるようになっている。自社の拠点がある地域では、30 分以内で事故現場に到着できる体制を目指している。対応依頼の連絡が直接同社にあっても、自動車保険の契約の有無を確認して対応を案内すると、費用が無料になる場合もあるので、依頼者に感謝されることも多い。困っている人を助け、作業を終えた後に「本当にありがとう」

「やはりプロですね」などの言葉で報われる、非常にやりがいのある仕事である。



走行不能になった車両を搬送する（左） 前面が大破した車両を牽引する（右）

プロとしての自覚と技術を磨く

社長の持論は「仕事は楽しくなければならぬ」であるが、この仕事は一日でこなす量が非常に多く、社員の定着率が課題であった。会社設立当初は、社内の社会保険制度や就業規則の整備に苦心したが、ES（従業員満足）の向上を目標に掲げ、今では時間外労働手当を 1 分単位で支給し、育児休暇の取得を奨励するなど、労働環境の改善を重ね、現在は女性隊員の活躍も進んでいる。また、2024 年 4 月からのドライバーの年間時間外労働の上限規制適用に向けて、人材の獲得にも力を注いでいる。

社員に対しては、常に CS（顧客満足）意識の向上を繰り返し伝えており、帽子をしっかりと被るなど、身だしなみの一つひとつを非常に重要視している。安全講習会の定期的な実施や、全日本高速道路レッカー事業協同組合（JHR）が主催するロードサービス業界の資格「自動車救援士」の取得の奨励など、教育体制の充実にも力を入れている。「人を採用しても最初は自分の思いを上手く伝えられず、組織を運営していくことの難しさを痛感したが、従業員と真摯に向き合うなかで理解が深まり、良き仲間や核となるメンバーもできた。現状維持は衰退と同じであると肝に銘じ、前を向いてガムシャラに働いてきたおかげで、今では立派な花が咲いている。今年で設立 20 周年を迎え、様々な記念イベントも計画しているが、これからも本業重視で足元をしっかりと固め、着実に成長していきたい」と梶本社長は常に前を見据えている。（大橋 徹、佐々木東吾）